

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																								
横浜カレッジ	昭和51年8月16日	岩崎 有紀子	〒220-0004 神奈川県横浜市西区北幸1-2-7 (電話) 045-311-5561																								
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																								
学校法人岩崎学園	昭和26年3月8日	理事長 岩崎 文裕	〒220-0004 神奈川県横浜市西区北幸1-2-7 (電話) 045-311-5561																								
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																							
服飾・家政	服飾・家政専門課程	ファッションライフデザイン学科	平成14年文部科学省 公示第26号	-																							
学科の目的	アパレル関連企業との連携授業やインターンシップ、活発なグループワークを通して、ファッションビジネスをトータルに捉える視座を養うとともに、実践力を養成。また、ファッション関連の最新テクノロジーに対応したカリキュラムで、ITスキルも兼ね備えた人材を育成する。デザイナー、パタンナー、3Dモデリスト、企画、総合職、プレス等、アパレル業界の幅広い職種をめざす。																										
認定年月日	平成26年 3月 31日																										
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																				
3	年間	2,520時間	510時間	2,130時間	720時間																						
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																						
120人	86人	0人	9人	15人	24人																						
学期制度	■前期: 4月1日～9月30日 ■後期: 10月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 5段階評価 ・評価点90点以上「S」評価 ・評価点80点以上90点未満「A」評価 ・評価点70点以上80点未満「B」評価 ・評価点60点以上70点未満「C」評価 ・評価点60点未満「D」評価(不合格) 2段階評価 ・「認」評価 ・「否」評価(不合格)																							
長期休み	■学年始: 4月1日～4月5日 ■夏季: 8月1日～8月31日 ■冬季: 12月25日～翌年1月7日 ■学年末: 3月21日～3月31日		卒業・進級 条件	成績の評価の「S」、「A」、「B」、「C」および「認」評価を合格とし、合格した科目については、所定の単位を認定する。卒業・進級にあたっては、必修科目の単位がすべて認定されることが条件となる。																							
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 クラス担任制をとり、定期的な個人面談を実施し、学生の適性や個性を尊重した対応に努めている。 また、より良い職業人の育成をめざし、学生生活の中に、入学年次の4月～9月の導入教育から、企業連携授業・インターンシップ、就職指導を有機的につなげるプログラムを配している。		課外活動	■課外活動の種類 校外研修、国内研修旅行、海外研修旅行 ■サークル活動: 有																							
就職等の 状況※2	■主な就職先・業界等(令和3年度卒業生) ヤマトドレス(株)、(株)パワー、ミックコーポレーション(株)、(有)サンエー服装、(株)矢部プロカッティング、(株)ブルックス プラザーズ ジャパン、(株)TSL、(株)ウィゴー、三永(株)、(株)東京芸夢 ほか ■就職指導内容 就職指導部を設置し、教務部と協力した就職指導を実施。主な内容は、就職面談、面接対策指導、筆記対策指導、校内合同業説明会開催、各業界企業セミナー開催などを実施している。 ■卒業生数 : 26 人 ■就職希望者数 : 22 人 ■就職者数 : 20 人 ■就職率 : 90.9 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 76.9 % ■その他 (令和3年度卒業生に関する 令和4年5月1日 時点の情報)		主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和3年度卒業生に関する令和4年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ファッションビジネス能力検定3級</td> <td>③</td> <td>26人</td> <td>19人</td> </tr> <tr> <td>色彩技能パーソナルカラー検定M1</td> <td>③</td> <td>26人</td> <td>24人</td> </tr> <tr> <td>パターン検定3級</td> <td>③</td> <td>5人</td> <td>5人</td> </tr> <tr> <td>色彩検定3級</td> <td>③</td> <td>26人</td> <td>15人</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 一般社団法人全国専門学校情報教育委員会 第18回ビジネスプロデュースコンペティション マーケティング賞、アイデア賞				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	ファッションビジネス能力検定3級	③	26人	19人	色彩技能パーソナルカラー検定M1	③	26人	24人	パターン検定3級	③	5人	5人	色彩検定3級	③	26人	15人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																								
ファッションビジネス能力検定3級	③	26人	19人																								
色彩技能パーソナルカラー検定M1	③	26人	24人																								
パターン検定3級	③	5人	5人																								
色彩検定3級	③	26人	15人																								
中途退学 の現状	■中途退学者 10名 令和3年4月1日時点において、在学者 91名(令和3年4月1日入学者を含む) 令和4年3月31日時点において、在学者 81名(令和4年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 病気療養、進路変更、家庭環境の変動、経済的理由		■中退率	11%																							
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 岩崎学園奨学生制度、岩崎学園震災特別対応基金制度、岩崎学園専門学校授業料減免制度 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象																										
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無																										
当該学科の ホームページ URL	https://yfc.iwasaki.ac.jp/index.html																										

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針
 高等学校教育の基盤の上に深く専門的な教育を施すにふさわしい授業を行うため、就職先企業などと連携し、その要請を十分に活かしつつ、教育課程の編成に反映させることにより、職業教育の質を高める。外部の関連施設の意見を教育課程編成に反映させるための機能として、「教育課程編成委員会」を設置する。教育課程編成にあたっては、授業内容、授業方法およびその手法、法定の範囲内での授業科目の新たな開設など「教育課程編成委員会」の意見を反映させるものとする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け
 教育課程編成委員は、就職後に求められる実務に関する理論・知識・技術・技能などを十分に把握し、それを職業教育に具体化するために、特に教育課程につき意見を述べ、その編成に寄与するものとする。このため、関連業界の動向や地域の実情に明るく、かつ経験豊富で卓識をもつ者を外部委員として選任する。また、実務のみならず、学校教育についても十分な理解があることが望まれる。委員会は学校長が主催し、外部委員のほか教育課程編成にたずさわる教職員も協議に加わるものとする。協議の結果については、教員会議で共有し、学校長の判断をもって、当該年度または翌年度の教授内容、教授方法など教育に具体的に活かすものとする。また、上記の性質から「学校関係者評価委員会」とは、役割を異にし、別組織として運営を行う。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和4年5月31日現在

名前	所属	任期	種別※
上野 真帆	一般財団法人ファッション産業人材育成機構 IFIビジネススクール 課長	R4.4.1～R5.3.31	F系①の役職者
蒲生 典子	一般社団法人ジャパニーズ・ヘア・ドレッシングアワードアソシエーション 運営委員 株式会社ガモウ 代表取締役執行役員社長	R4.4.1～R5.3.31	B系①の役職者
佐々木 貴夫	公益社団法人日本プライダル文化振興協会 事務局長	R4.4.1～R5.3.31	Br①の役職者
千葉 智之	株式会社リクルート Division統括本部 ビューティDivision リサーチ&アカデミーG ホットペッパービューティーアカデミー アカデミー長	R4.4.1～R5.3.31	B系③の役職者
中村 英二	株式会社イーグラント・コーポレーション 代表取締役社長		B系③の役職者
野坂 透	マイプリント株式会社 取締役 常務執行役員	R4.4.1～R5.3.31	Br③の役職者
古田 弘美	株式会社ユークス 開発担当執行役員 横浜/LA開発室 室長・プロデューサー	R4.4.1～R5.3.31	F系③の役職者
向千鶴	株式会社INFAS パブリケーションズ 執行役員 WWDJAPAN編集統括兼サステナビリティ・ディレクター	R4.4.1～R5.3.31	F系③の役職者
柳川 純一	株式会社オンワードホールディングス人財Div.人財Sec 課長代理	R4.4.1～R5.3.31	F系③の役職者
横山 昌弘	全国理美容製造者協会 代表理事 日本ロレアル株式会社 プロフェッショナルプロダクト事業本部 営業統括本部長	R4.4.1～R5.3.31	B系①の役職者
岩崎 有紀子	横浜カレッジ 学校長	R4.4.1～R5.3.31	内部委員(委員長)
小松 加代子	横浜カレッジ 教務部 部長	R4.4.1～R5.3.31	内部委員
江波戸 秀樹	横浜カレッジ 教務部 次長	R4.4.1～R5.3.31	内部委員
角館 裕美	横浜カレッジ 教務部 次長	R4.4.1～R5.3.31	内部委員
西木 祐子	横浜カレッジ 教務部 参与	R4.4.1～R5.3.31	内部委員
市川 祐三	横浜カレッジ 教務部 参与	R4.4.1～R5.3.31	内部委員
別所 慶子	横浜カレッジ 教務部 教務課 課長補佐	R4.4.1～R5.3.31	内部委員
森山 光子	横浜カレッジ 教務部 教務課 課長補佐	R4.4.1～R5.3.31	内部委員
藤重 寛志	横浜カレッジ 教務部 教務課 主任	R4.4.1～R5.3.31	内部委員
佐々木 睦美	横浜カレッジ 教務部 教務課 主任	R4.4.1～R5.3.31	内部委員
大塚 留美子	横浜カレッジ 教務部 教務課 主任	R4.4.1～R5.3.31	内部委員
篠原 夕子	横浜カレッジ 教務部 教務課 主任	R4.4.1～R5.3.31	内部委員
安池 かおり	横浜カレッジ 教務部 教務課 主任	R4.4.1～R5.3.31	内部委員
鈴木 理恵	横浜カレッジ 教務部 教務課 主任補佐	R4.4.1～R5.3.31	内部委員
松本 みつほ	横浜カレッジ 教務部 教務課 主任補佐	R4.4.1～R5.3.31	内部委員
三富 千恵子	横浜カレッジ 教務部 教務課 主任補佐	R4.4.1～R5.3.31	内部委員
末次 友香	横浜カレッジ 教務部 教務課 主任補佐	R4.4.1～R5.3.31	内部委員
中澤 宏将	横浜カレッジ 教務部 教務課 主任補佐	R4.4.1～R5.3.31	内部委員
村上 めぐみ	横浜カレッジ 教務部 教務課 専門教員	R4.4.1～R5.3.31	内部委員
桑内 美穂	横浜カレッジ 教務部 教務課 専門教員	R4.4.1～R5.3.31	内部委員
中谷 香穂	横浜カレッジ 教務部 教務課 専門教員	R4.4.1～R5.3.31	内部委員
鈴木 寿子	横浜カレッジ 教務部 教務課 専門教員	R4.4.1～R5.3.31	内部委員
増田 隆司	横浜カレッジ 教務部 広報学生課 課長	R4.4.1～R5.3.31	内部委員

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合には、種別の欄は空欄で構いません。)

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

※学科名の略称 F系:ファッション系学科(ファッションライフデザイン学科、ファッションビジネス科)

Br:プライダル科

B系:ビューティー系学科(ビューティーコーディネーター科、ビューティースタylist科)

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年2回開催し、7月は当該年度の中間報告として、2月は当該年度の振り返りと次年度方針についての討議を行う。

(開催日時)

第1回 令和4年7月22日 14:00～15:30

第2回 令和5年2月20日 14:00～15:30 (予定)

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況
委員からは、①アパレル業界でのEC関連求人が増加傾向にあるものの、企業側が求める人材とその能力を備えている人材とのマッチングが難しいこと、②DXとサステナビリティの2軸でファッション業界は変革しており、プロモーションや販売方法などもデジタルとリアルが融合していくこと、などの意見が出された。令和4年度は、3Dモデリングの授業を導入し、デジタルサンプル作成など、モノ作りにおけるデジタル化教育を推進。また、Webサイト作成・画像や動画の編集スキルの向上、SNS等の学びにより、成果を社会に発信できる環境や機会を整えていく。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針
ファッション分野のプロになる為の知識・知恵・技術を学ぶ豊かな環境を提供する。また、3年間でP.B.Lや産学連携による様々な教育プログラムを通し、社会人・職業人としての素地をつくり、卒業後ファッション業界で即戦力になり、活躍出来る人材の養成と輩出を目指す。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容
本学科では、学科ブランドデザインに基づき、企業と連携しシラバスを作成し下記の連携科目を実施している。企業講師や担当教員による実習を行い、課題ごとの中間発表や作品展を通して、企業講師の評価を受けている。実習修了時には、担当教員が企業講師の評価を踏まえ総合的に成績評価を行っている。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
ファッション流行論	国内外のファッションシーンに関わる全て事象、時代の動向、トレンドの流れ、川上から川下の企業・ブランドの最新ビジネス戦略など、プロのファッション業界人として知っておくべき広義のファッション基礎を総合的に学ぶ。	(株)INFASパブリケーションズ
流通論Ⅰ・Ⅱ	産業界の第一線で活躍する講師による演習形式の授業。最新のファッション動向や、将来を見据えた業界の課題についても考察する。	一般財団法人 ファッション産業人材育成機構
ファッションプロジェクトⅠ・Ⅱ・Ⅲ	全学生によるP.B.L授業(1年次は後期のみ)。アパレルブランドの企画製作・ブランド運営・展示会・ショーと、一連のアパレル業界の流れを学ぶ。	三菱地所リテールマネジメント(株) (株)エイム クリエイト
アパレル商品企画	3年生オリジナルブランド「com.f」を運営。連携企業協力の下、企画・生産指示・ブランド運営・展示会・ショーを行う。一連のアパレル業界の流れを学ぶ集大成となる。	(株)三景 (株)モーリス 宇仁織維(株) (株)ヤマトクリエーション横浜

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針
本校では、平成24年4月1日施行の教職員研修に関わる規程に基づき、企業と連携した研修を行うことで産業動向や企業の人材ニーズを理解し、教育内容や就職支援に役立てることとする。研修は本校の人材育成計画に添って、①職業実践に資する知識・技術の習得 ②学生指導・教授法 ③学生サービス・支援等の内容で、年間で計画し、実施する。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等
研修名:「FDE出版記念セミナー」(連携団体等:一般社団法人ファッションデザインエンジニアリング協会)
期間:2021年5月27日(木) 18:00~19:30 対象:藤重寛志・鈴木理恵・奥山貴子
内容:売り上げの伸長、在庫圧縮、商品消化率の向上、廃棄ロス削減、業務の効率化などの課題を解決し新しい価値を創造する、と期待される注目の3Dモデリング技術。非常に高度なスキルを要する3Dモデリングであるが、産業活用が可能になれば、サンプルレスの物づくりの実現、製造から販売まで情報の一元共有、ECでのささげ業務の軽減などを可能にする。

研修名:「品質管理セミナー「入門編」」(連携団体等:一般社団法人日本アパレル・ファッション産業協会)
期間:2021年6月3日(木) 16:00~17:00 対象:鈴木理恵・奥山貴子
内容:品質管理における用語資料の共有、組成の解説など

研修名:「アパレルブランドにおけるアプリの役割とは?」(連携団体等:株式会社ヤプリ)
期間:2021年9月7日(火) 16:00~18:00 対象:奥山貴子
内容:アパレルブランドにとってアプリは、ブランドとお客様を繋げる重要な接点。アプリをDLしブランドを「所持」してくださるお客様がいかに大切か。又、所持されるブランドアプリに必要なこととは何か?企業にとって、お客様にとって、双方に必要なアプリの枠割りについてのトークセッション。

研修名:「基本を踏まえた“くずし”(応用)の方法とは?」(連携団体等:日本モデリスト協会)
期間:2021年11月13日(土) 13:00~17:00 対象:奥山貴子
内容:コロナ禍でテレワークが普及し、着用スタイルのカジュアル化が加速。ビジネススタイルはオン・オフで着られるリラックス感を備えたサイジングや作り方が求められる。今回は基本を踏まえた上で応用を考える「基本を踏まえた“くずし”(応用)の方法とは?」をテーマにレディス・メンズでこの課題に取り組む。

研修名:「WWDJapan ファッション&ビューティテック スペシャルオンラインセミナー「デジタルファッションの可能性」」(連携団体等:WWD Japan)
期間:2021年12月15日(水) 15:30~16:00 対象:奥山貴子
内容:ゲームやSNSなどのメタバースの広がりは、これまでのリアルとバーチャルの境界線を塗り替えようとしている。ファッションデザインにはどのような影響が出るのか。フィジカルな服作りに3DCADを取り入れる長見佳祐「ハトラ(HATRA)」デザイナーと、人気オンラインゲーム「ファイナルファンタジー14」の生江亜由美リードキャラクターコンセプトアーティストの二人が語る。。

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:「3Dモデリスト合格への道～検定の傾向と対策～」(連携団体等:一般社団法人ファッションデザインエンジニアリング協会)

期間:2022年1月20日(木) 17:30～19:00 対象:藤重寛志・鈴木理恵・奥山貴子

内容:2021年10月2日に行われた第一回ファッション3Dモデリスト検定試験を振り返りながら、3DCGの活用事例、世界的な動向、今後の3Dモデリングの可能性などについて解説。

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名「VRが変えるファッションBtoCビジネス」(連携団体等:WWD Japan)

期間:2022年7月1日(金)13:30～15:00 対象:奥山貴子・三浦達矢

内容:「メタバース」についての研修。

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「ユニバーサルデザイン検定講習会」(連携団体等:株式会社ミライロ)

期間:2022年6月3日(金)13:00～15:00 対象:鈴木理恵

内容:ユニバーサルマナーの実践に必要な「マインド」と「アクション」を体系的に学び、身につける。適切な声かけやコミュニケーションを行うために、まずは多様な人々の特徴や心理状況を知ることから始めます。その上で、日常生活や接客時における適切なサポート方法

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

学校目的を達成するための目標設定や具体的計画について、達成状況や取り組みの適切さを自己評価として行い、その結果について、本校に定める学校評議委員会が評価を行う。その目的は、学校評価の精度を上げ、客観性を高めるためのものであり、企業、地域代表、卒業生の意見を積極的に汲み取り反映させる。そのため、学校関係者評価委員会を組織し、学校の活動内容を各委員に周知するとともに、意見交換を行う機会を設ける。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	理念・目的・育成人材像は定められているか、また学生、保護者へ周知されているか、公表されているか、等
(2)学校運営	運営会議等が定期的に行われているか、事業計画が定められているか、等
(3)教育活動	教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針が策定されているか、等
(4)学修成果	就職率の向上、退学率の低減、卒業生の活躍、等
(5)学生支援	進路・就職に対する支援体制、学生相談の体制、経済的支援体制、等
(6)教育環境	施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか、等
(7)学生の受入れ募集	学生募集活動は適性に行われているか、教育成果は正確に伝えられているか、等
(8)財務	財務基盤は安定しているか、予算・収支計画は妥当か、会計監査は適正か、等
(9)法令等の遵守	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営、個人情報保護の対策、等
(10)社会貢献・地域貢献	学校施設を活用した社会貢献の実施、ボランティア活動の奨励・支援、等
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

現在、ファッション業界全体がDXを推進しており、デジタル活用に対応できる人材育成が重要となっている。一方で、販売職では研修の一環としてのOJTを大切に、場数を踏むことが企業人としてとして欠かせないという意見もいただいた。実践的な人材を育成するため、現場でのインターンシップ経験が大切な要素となるため、新規インターンシップの獲得を強化し、学生への教育活動に展開していく。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和4年5月31日現在

名前	所属	任期	種別
市川 雄司	株式会社TFL 代表取締役	R4.4.1～R5.3.31	企業等委員
高田 明宏	株式会社高島屋 執行役員横浜店長	R4.4.1～R5.3.31	業界・地域委員
那須野 教恵	神奈川県教育委員会 教育局 総務室 専門員 (前 県立高等学校 校長)	R4.4.1～R5.3.31	教育行政委員
夏目 哲宏	株式会社ブライト 代表取締役	R4.4.1～R5.3.31	企業等委員
三根 慎吾	合同会社アタシ社 代表社員	R4.4.1～R5.3.31	卒業生、企業等委員
吉原 直樹	株式会社アルテサロンホールディングス 代表取締役会長	R4.4.1～R5.3.31	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他() 公開時期:毎年8月

URL: <https://yfc.iwasaki.ac.jp/index.html>

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

教育活動や学校情報を外部に提供することにより、専門学校の社会的な理解・評価を促進し、教育の質の確保・向上を図ることを目的とする。情報の提供にあたっては、学生や保護者、関係業界等が求める情報の内容を把握し、その求めに応じた情報を適切に提供することを基本とし、また、その方法にあたっては、学校案内書などのパンフレット、各種説明会における説明、広報物、学校ホームページなど提供すべき情報の性質にあわせた適切な手段で行う。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校教育・人材養成の目標及び教育指導計画、特色、学校長名、所在地、連絡先、学校の沿革、歴史、等
(2)各学科等の教育	入学者に関する受け入れ方針及び入学定員、カリキュラム、時間割、学習の成果として取得を目指す資格
(3)教職員	教員の紹介
(4)キャリア教育・実践的職業教育	就職支援等への取組状況、実習の取組状況
(5)様々な教育活動・教育環境	学校行事への取組状況、課外活動(ファッションショー、イベント活動)
(6)学生の生活支援	学生支援の組織(クラス担任制)
(7)学生納付金・修学支援	学生納付金の取扱い(金額、納期時期等)、活用できる教材的支援措置の内容等(奨学金、授業料減免制度等の案内)
(8)学校の財務	事業報告書、等
(9)学校評価	自己評価・学校関係者評価の結果
(10)国際連携の状況	
(11)その他	学則、厚生施設の案内

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

ホームページ URL: <https://yfc.iwasaki.ac.jp/index.html>

授業科目等の概要

(服飾・家政専門課程ファッションライフデザイン学科) 令和4年度																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・ 学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験・ 実 習・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
1	○			インターネット ビジネス	ネット上で行われているネット販売に関する基礎知識を学ぶ。	1・ 通	60		△	○		○	○			○
2	○			ファッション ビジネス検定	ファッションビジネス検定3級の合格を目指し、ファッション業界での基礎的な用語を理解する。(ファッションビジネス検定3級取得科目)	1・ 通	60		○			○				○
3	○			サービスト レーニング	各分野業界特有のサービス特性やホスピタリティサービスにとらわれず、普遍的な日本人のおもてなしマインドを主軸に展開する。	1・ 前	15		○			○				○
4	○			マテリアル・ 服飾史	被服素材の種類・性質・扱い方・衣料管理方法の知識を理解。西洋の服装史から、時代背景とファッションの変化を考察し、各時代のスタイルの特徴を習得する。	1・ 通	30		○			○				○
5	○			プロダクト造 形Ⅰ	アパレル製品のアイテム別構成を理解する。服作りに必要な基礎知識や基礎技術を習得する。	1・ 通	150			△	○	○				○
6	○			マーケティングⅠ	ファッションビジネスでの市場を分析する為の基礎知識を学習。流通全体の把握、生活者の意識を共感レベルで認識でき、分析する力を身につける。	1・ 通	90					○				○
7	○			デザインド ローイングⅠ	基礎表現を学び、着装方法を様々なアイテムを通し学ぶ。ディテールや素材、ボリューム感を身につけながら描く。デザイン発想力を鍛えていく。	1・ 通	90				○	△	○			○
8	○			ITリテラシー 講座	ビジネスで活用できるパソコン(文書作成、表作成、プレゼンツール)を理解し、ビジネス文書や企画書の作成、プレゼンテーション用ツールの作成技術を身につける。	1・ 通	30					○				○
9	○			流通論Ⅰ	産業界の第一線で活躍する講師による演習形式の授業。最新のファッション動向や、環境問題をはじめ将来を見据えた業界の課題についても考察する。	1・ 通	30					○				○
10	○			パーソナルカ ラー	色彩検定3級の学習範囲を中核に幅広く色についての知識と教養を身につける。実技演習を通し色に対する感性と感覚を養う。	1・ 通	60		○			○				○

11	○		平面製図	工業製品として大量に生産するための、縫製工程や材料のロスの考慮をふまえた「既製服」のパターンメイキングを平面製図展開方法で学習する。	1・通	60			○	△	○	○				
12	○		ファッション流行論	国内外のファッションシーンに、時代の動向、トレンドの流れ、川上川下企業・ブランドの最新ビジネス戦略等、ファッション業界人に求められるファッションの基礎を総合的に学ぶ。	1・通	30			○		○		○	○		
13	○		デザイン概論	デザイン、アート、映像作品を中心に、視覚的情報を得ることで、デザイン力、発想力の基礎を育み、視野を「好きなもの」から「デザイン活用できるもの」に広げていく。またSDGsへ向けた取り組みについても実践例をテーマに学ぶ。	1・通	60			○			○		○		
14	○		eラーニングⅠ	ファッション業界に即した英語表現や英会話を学ぶ。	1・前	15			○			○		○		
15	○		ファッションプロジェクトⅠ	全学生によるP.B.L授業（1年次は後期のみ）。アパレルブランドの企画製作・ブランド運営・展示会・ショーと、一連のアパレル業界の流れを学ぶ。産学連携科目	1・後	75				△	○	○		○	○	○
16	○		クラスアクティビティ	クラス運営、コミュニケーショントレーニングを主とした活動を行う。	1・通	30			○			○		○		
17	○		カラーデザイン	パーソナルカラー検定モジュール1の内容をベースに色を理論的に識別判断できる力を養う為のワークを行う。	2・通	30			○			○		○		
18	○		サービストレーニング	各分野業界特有のサービス特性やホスピタリティサービスにとらわれず、普遍的な日本人のおもてなしマインドを主軸に展開する。	2・前	15			○			○		○	○	○
19	○		コミュニケーション&マナー	就職活動に先駆けて、就職企業へ向けてのアピール方法、面接での立ち居振る舞い、一般常識、社会人マナーを習得する。	2・後	15			○			○		○		
20	○		ファッションプロジェクトⅡ	全学生によるP.B.L授業（1年次は後期のみ）。アパレルブランドの企画製作・ブランド運営・展示会・ショーと、一連のアパレル業界の流れを学ぶ。産学連携科目	2・通	150				△	○	○		○		○
21	○		流通論Ⅱ	産業界の第一線で活躍する講師による演習形式の授業。最新のファッション動向や、環境問題をはじめ将来を見据えた業界の課題についても考察する。	2・通	30					○		○		○	○
22	○		マテリアルⅠ	1年時に学んだ基礎的なマテリアルの知識を踏まえより高度な知識の習得を目指す。後期は、島精機デザインシステムの基本操作を学ぶ。	2・通	30					○		○		○	
23	○		eラーニングⅡ	ファッション業界に即した英語表現や英会話を学ぶ。	2・通	30			○			○		○		

38	○		マーケティングⅢ	実践的なマーケティング手法を習得し、分析視点の持ち方などを実地経験から学ぶ。ファッションビジネスにおけるマーケット分析の演習とプランニングへの連動を学ぶ。	3・通	90			○	○	○						
39	○		アパレル商品企画	情報化社会での時代性を理解し、ファッショントレンドのみならず、生活全般のトレンド動向を感じ、産学連携に於いて実際のアパレルブランドの立ち上げ運営を実体験する。	3・通	180			○	○	○	○					
40		○	デザインローイングⅢ	CGを応用したスタイル画やデザイン画から、イラストレーターを使った高度なMAP作りまで、企業の即戦力となる様なスキルを磨く。	3・通	90			○	△	○	○					
41		○	プランニングⅡ	総合的な商品企画の流れを理解し、現場で行われている企画の方法、実際のアパレルブランドの立ち上げにより、企画業務の総理解を習得する。	3・通	90			○	○	○	○					
42		○	マーチャンダイジングⅡ	仕入、SPAから売上、顧客フォローまでの一連の流れを理解し、店舗、バイヤー、MDの計数管理、ファッション流通ビジネスの基本的な仕組みを習得し将来に生かせる技術を身に付ける。	3・通	90			○	○	○	○					
43		○	ブランドプロモーション	2年次のWEBプランニングを受け、WEBサイトの運営 分析 集客拡大等を図るためのノウハウを体感的に学習する。	3・通	180			○	○	○	○					
44		○	クリエイティブパターンⅡ	服種に必要なゆとり、運動量、シルエット、バランスを学習する。縫製効率・裁断効率を考慮したパターン修正を行い、工業パターンの展開を習得する。	3・通	60			○	△	○	○					
45		○	プロダクト造形Ⅲ	マーケティングの授業内で立てた商品企画・コンセプトを基に、トータルコーディネイトとして、マイブランドを想定し製作することで技術を習得する。	3・通	120			△	○	○	○					
46		○	工業パターンⅡ	パターン製作を通してアパレル生産企画のパタンナーとしての業務を習得し、即戦力となり得る人材を目指す。(パターンメイキング技術検定試験2級取得科目)	3・通	90			○	△	○	○					
47		○	CADⅡ	アパレルCADシステムでのグレーディング機能を学習する。オペレーション機能の応用、CAD操作の正確性とスピードアップ、仕様書システム操作、業界での量産用の技術を習得する。	3・通	90			○	○	○	○					
48	○		クラスアクティビティ	就職活動、クラス運営、コミュニケーショントレーニングを主とした活動を行う。	3・通	30			○		○	○					
合計				48科目	2520単位時間 (単位)												

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
各年次における必修科目を履修し、所定の単位をすべて取得した者に対して卒業を認定する。	1 学年の学期区分	2期	
	1 学期の授業期間	15週	

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。